

2005.3.5
No.3

こあじ冊子

～ Little Tern Project ボランティア通信 ～



..... TOPIC

リトルターン・プロジェクトの新たな一歩～リトルターン・プロジェクト設立総会～

LTPの目指すものとは？

LTPの構成メンバー

LTPの5つの専門部会

2005年度の営巣地整備計画

連載 コアジサシコラム

リトルターン・プロジェクト報告会・交流会

スタッフ紹介

————— 〈付録〉 —————

2004年度 リトルターン・プロジェクト年次報告書

2005年 営巣地整備ボランティア作業募集要項

リトルターン・プロジェクトの新たな一步

～リトルターン・プロジェクト設立総会～

昨年の12月12日に池上会館(東京都大田区)にて、リトルターン・プロジェクト(以下、LTP)設立総会が開催されました。

2001年6月に代表の増田直也が森ヶ崎水再生センター屋上にてコアジサシが営巣しているのを発見し、“リトルターン・プロジェクト”が発足しました。それ以来、私たちはコアジサシにとってよりよい営巣地を創るため、一心に活動を続けてきました。設立総会は、LTPの目指すもの(目的)や、その目的を達成するために私たちが今後進めていくべき活動を、改めてスタッフ全員で確認するために開催されました。



設立総会の様子



LTPの目指すものとは？

森ヶ崎水再生センター屋上における営巣環境の保全・復元

森ヶ崎水再生センター屋上以外での生息環境の保全・復元

私たちの生活と自然環境の調和

LTPは、森ヶ崎水再生センターの屋上をコアジサシなどの野鳥が生息するのに適した環境にするとともに(森ヶ崎水再生センター屋上における営巣環境の保全・復元)、河原や砂浜など、コアジサシの本来の営巣地や、採餌場所・ねぐら・渡りの中継地など、屋上営巣地以外にも、コアジサシが利用する自然環境の保全・復元(森ヶ崎水再生センター屋上以外での生息環境の保全・復元)を行います。

これらを通して、「私たちの生活と自然環境の調和」を図ることを目的として活動しています。



LTPの構成メンバー

リトルターン・プロジェクトを支える人々



LTPを運営



LTPを支援

LTPの運営に関わる人々 総勢40名

【役員】

代表 1名

副代表 4名

専門部会リーダー 5名

会計 1名

顧問 4名

会計監査 2名

その他のスタッフ 23名



LTPの5つの専門部会

<主な活動内容>

保護・整備部会

…コアジサシ生息環境の
保全・復元

環境学習部会

…地域の環境学習の支援

調査・研究部会

…生息環境調査・生態研究

広報部会

…事業成果の広報・普及、
ネットワークづくり

運営・管理部会

…上記すべての活動を支える

LTPは、「LTPを運営する人々」と「LTPを支援する人々」(この“こあじ冊子”をご覧になっている皆様のことです!!)によって構成されています。

現在、LTPの運営に関わっているのは総勢40名のスタッフです。スタッフは5つの専門部会に所属し(ほとんどの人が複数に所属しています)、目的を達成するために活動しています。

(E.S.)

今年度の営巣地整備計画 ～ コアジサシが安心して子育てできる屋上を再び～

営巣地の面積が約2倍になります！！

森ヶ崎水再生センター東施設屋上(コアジサシの営巣地がある場所)において、昨年の12月から屋上の修復工事が行われています。この工事では老朽化した部分を修復したり、屋上を強化するために、屋上全体に砂利の敷きならしを行っています。この工事により、コアジサシの営巣地として利用できる場所が約3ヘクタールから約6ヘクタール、なんと、2倍に拡大されました！

また、雑草繁茂の原因となっていたスラッジライト(汚泥を高温で加熱してつくられた建材)のほとんどが取り除かれ、屋上全体に敷きならしてある建材は河原にあるような砂利に替わりました。



スラッジライトが取り除かれた
コアジサシ営巣地



砂利の敷きならし風景

今年もコアジサシのために 営巣地整備作業を実施します！！

今年もコアジサシが安心して子育てできる場所を創るため、営巣地整備作業を行います。実施日は次の6日間です。詳しくは、同封のチラシをご覧ください！！

3月20日(日)・21日(月・祝日)

3月26日(土)・27日(日)

4月2日(土)・3日(日)

作業内容は・・・

作業 : カラス対策

コアジサシの天敵であるカラスは、狙いをさだめるために近くの木や壁にとまってから獲物を捕らえるといわれています。そこで、周囲の壁に鉄筋棒を打ち込み水系を張り、カラスがとまる場所をなくします。

作業 : 雑草対策

昨年、コアジサシが営巣しなかった最大の原因は雑草の繁茂であると考えられます。そこで、草むしりを行うとともに、一部残存しているスラッジライトの上に農業用のシートをかぶせることで、植物の種子が散布されるのを防止します。

作業 : 溝・段差対策

屋上には小さなヒナにとっては危険な場所がたくさんあります。そこで、溝や段差にヒナが落下しないよう、建築用のブロックを設置して壁をつくれます。

作業 : シェルター・レンガ

ヒナが天敵から狙われた場合に逃げ込む場所として、また屋上に降り注ぐ強い日差しからヒナを守るため、シェルターやレンガを設置します。(E.S.)

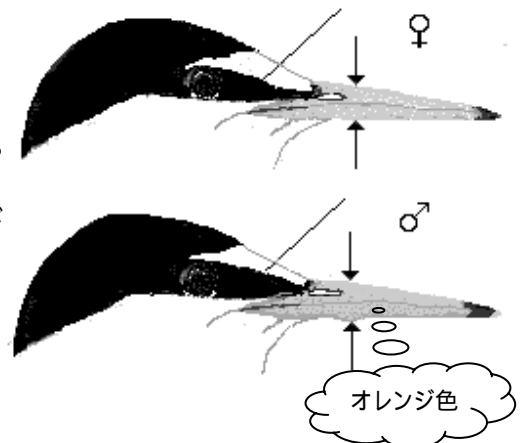
連載 コアジサシコラム

第2回 「コアジサシの雌雄の見分け方」

コアジサシの雌雄は外観がそっくりなので、捕まえて詳細を調べないと解りません。今回は望遠鏡を使えばできそうな見分け方を紹介します。

注目するのは顔です。嘴が高く色がオレンジ色を帯びているのが雄で、目から嘴にかけての線が雄では太く、雌では徐々に細くなる傾向があります。ただしこれは絶対的な基準ではありません。中には男顔の雌や女顔の雄もいるのです(人間でもいますよね！)。しかし、つがいを比較する時には有効でしょう。(W.K.)

参考: Behman and Persson. Notes on biometry, sex determination and moult in Little Tern *Sterna albifrons* (<http://home.swipnet.se/~w-48087/faglar/materialmapp/ruggmapp/albifrons.html>).



図、コアジサシの特徴的な雌雄の顔
(Behman and Perssonによる)

LTP 報告会・交流会を開催しました！

1月30日(日)、東京港野鳥公園でLTPの活動報告会、ボランティア交流会を開催しました。30名の方々にお集まりいただき、2004年の活動報告、2005年の活動予定の発表、ワークショップを行いました。

ワークショップでは、LTPの活動に対してみなさんが感じられていること、カラスや雑草対策をこうしてはどうだろう？といったアイデア、意見が活発に交換されました。それらの意見をここでご紹介したいと思います！



～ワークショップでのご意見あれこれ～

草原化対策について

参：農薬を使ってはどうか？

【参：参加者】

【ス：LTPスタッフ】

ス：コアジサシに対して無影響とは言い切れないので、いまのところ使う予定はありません。

参：野焼きをしてもいい？

ス：地表の草は焼けますが、地中に残った根や種には影響がないので、結局はまた生えてしまうようです。

参：海水を撒いてはどうか？

ス：現在実験で確かめていますが、周辺域の海水は塩分濃度が低いので、効果に疑問の声もあります。

この他にも、こんなアイデアもいただきました！

「コアジのいない時期、砂利にシートを被せては？」

「ボランティアの手で、砂利をすいて薄くしては？」

「砂利の下にすのこを強いて、砂が堆積ないようにしては？」 「植生調査の結果を知りたい」 などなど

カラス対策について

「もっと積極的にカラスを捕獲しては？」

「特定のカラスに餌付けしてここをなわばりにさせれば、それ以外のカラスはよってこれないのでは？」

「カラスの調査をした上で、行政と協力すべき。」

「カラス同士の警戒音やコアジサシの威嚇音など、カラスの嫌いな音を流してはどうか？」 (Y.A.)

他にも多くのご意見をいただきましたが、紙面の都合上、今回は上記のものだけを掲載させていただきました。このワークショップを踏まえ、みなさまからの意見を真摯に検討するとともに、以下の3点が必要だと考えました。事業内容・成果・調査結果をしっかりと伝える。雑草・カラス対策は、最終案にいたるまでの検討の経緯も含めてお知らせする。ボランティアさんの意見を取り入れるしくみをつくる。ご参加下さったみなさん、本当にありがとうございました！次の機会には、更に多くのご参加をお待ちしております。



林 英子 (はやし えいこ)

財団法人野鳥の会 会員室
LTP 調査 研究部会

二〇〇一年、東京港野鳥公園でレンジャーをしていた時に、増田氏の連絡を受け、共にコアジサシの屋上営巣の調査を行ったのがきっかけ。国内初の事例といついで鳥学会で発表しました。その後二〇〇二年の調査責任者として調査を継続し、結果を同学会で報告して多くの注目を受けました。
交渉事は苦手なものと、今は部署が変わってしまったため、機動力には欠けませんが、できる限りLTPの調査活動を支援していきたいと思っています。



倉本 宣 (くらもと のぶ)

明治大学農学部応用植物生態学
研究室 カワラノギクプロジェクト
LTP 顧問

きっかけは、野鳥の会の機関誌「野鳥」に裸地の自然についての原稿を依頼され、原稿が印刷されてみたら、LTPの記事の後ろだったことです。

その後、増田さんから連絡があつて水再生センターに院生の柴田さん現在LTPのスタッフと一緒にいきました。顧問という役割をいただいています。このころ仕事が忙しくて、思い通りに活動できていません。今年にはスタッフの北村さんと植物について調査しようとして準備しています。なんとか時間をとって参加しますのでよろしくお願ひします。

お問合せ先

住所：〒143-0015 東京都大田区大森西5-10-22増田方 リトルターン・プロジェクト

E-mail: littletern_pj@hotmail.com

Tel: 080-1173-7534 (受付時間・・・10:00～20:00)

HP-URL <http://www.metro-npo.net/littletern/>

発行 リトルターン・プロジェクト

編集 柴田英美・赤瀬悠甫

イラスト・写真撮影 岩本久則・大塚豊・伊東真寿美ほか